

町民参加・職員インタビュー結果の概要

- 町民参加・職員インタビューのまとめ
- 町民討議会結果の概要
- 職員インタビュー結果の概要
- 世代別ヒアリング結果の概要（町長と学生の語る会）
- 世代別ヒアリング結果の概要（町長と子育て世代の語る会）

町民参加・職員インタビューのまとめ

(1) 町民討議会

●阿見町に足りないところ

- ・車がないと不便
 - ・アピールが足りない
 - ・飲食店が少ない
 - ・自転車・歩行者が安心して通れる道がない
- など

●阿見町がどうすれば住みたい町になるか（テーマ）

- ・より暮らしやすい町
- ・阿見町全体が住みやすい町
- ・より良い福祉の町
- ・現有物のグレードアップ
- ・様々な世帯が住み易いまち

●具体的アイデア

- ・町民で楽しめるスポーツイベント
- ・お店の増加
- ・デマンドタクシーを使いやすく
- ・霞ヶ浦の整備
- ・ありがとう運動 など

- 「暮らしやすい」、「福祉の町」、「様々な世帯に住みやすい」などの概念を基本構想の基本理念や10年後のまちの姿に反映します。
- 具体的なアイデアは、基本計画の中で施策の検討に役立てます。

(2) 職員インタビュー

●阿見町の変化

- ・住宅の増加
- ・小学校の新設
- ・住民参加機会の増加
- ・コミュニティの希薄化

●阿見町の強み・弱み

- ・観光資源
- ・アクセスの良さ
- ・自然と利便性のバランスの良さ
- ・町の良さを伝える発信力が弱い

●10年後の阿見町

- ・人口増加の展望（荒川本郷をメインとした住宅地開発、交通網の整備、商業施設の充実）
- ・子育てしやすい環境づくりによる活気のあるまち
- ・多様性のあるインクルーシブなまち
- ・DXの推進、町民ニーズへの対応

- 10年後のイメージを、基本構想の基本理念や10年後のまちの姿に反映します。

(3) 世代別ヒアリング

●町長と学生の語る会

- ・公共交通の利便性の向上（運行情報のリアルタイムの提供など）
- ・デジタル化へのサポート（高齢者）
- ・町への愛着、郷土愛の醸成
- ・若者の交流の場の創出（運動ができる場、温浴施設、廃校の活用、宿泊施設など）

●町長と子育て世代の語る会

- ・人のあたたかさがある（挨拶などのコミュニケーションができています）
- ・子育て世代の働きやすい環境づくり（就労支援、保育環境）
- ・子育てに関する情報提供の充実
- ・世代を超えて利用できる施設
- ・小学校の乳幼児子育て世代の方への対応、陣痛タクシー、誰もが移動しやすい移動手段など

- 求められるまちの姿を、基本構想の基本理念や10年後のまちの姿に反映します。
- 具体的なアイデアは、基本計画の中で施策の検討に役立てます。

町民討議会結果の概要

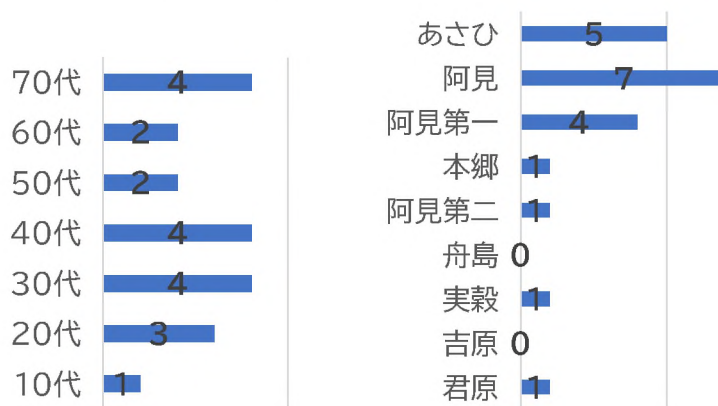
1. 実施日時・場所

令和4年7月23日午前9時～12時頃

中央公民館3階集会室

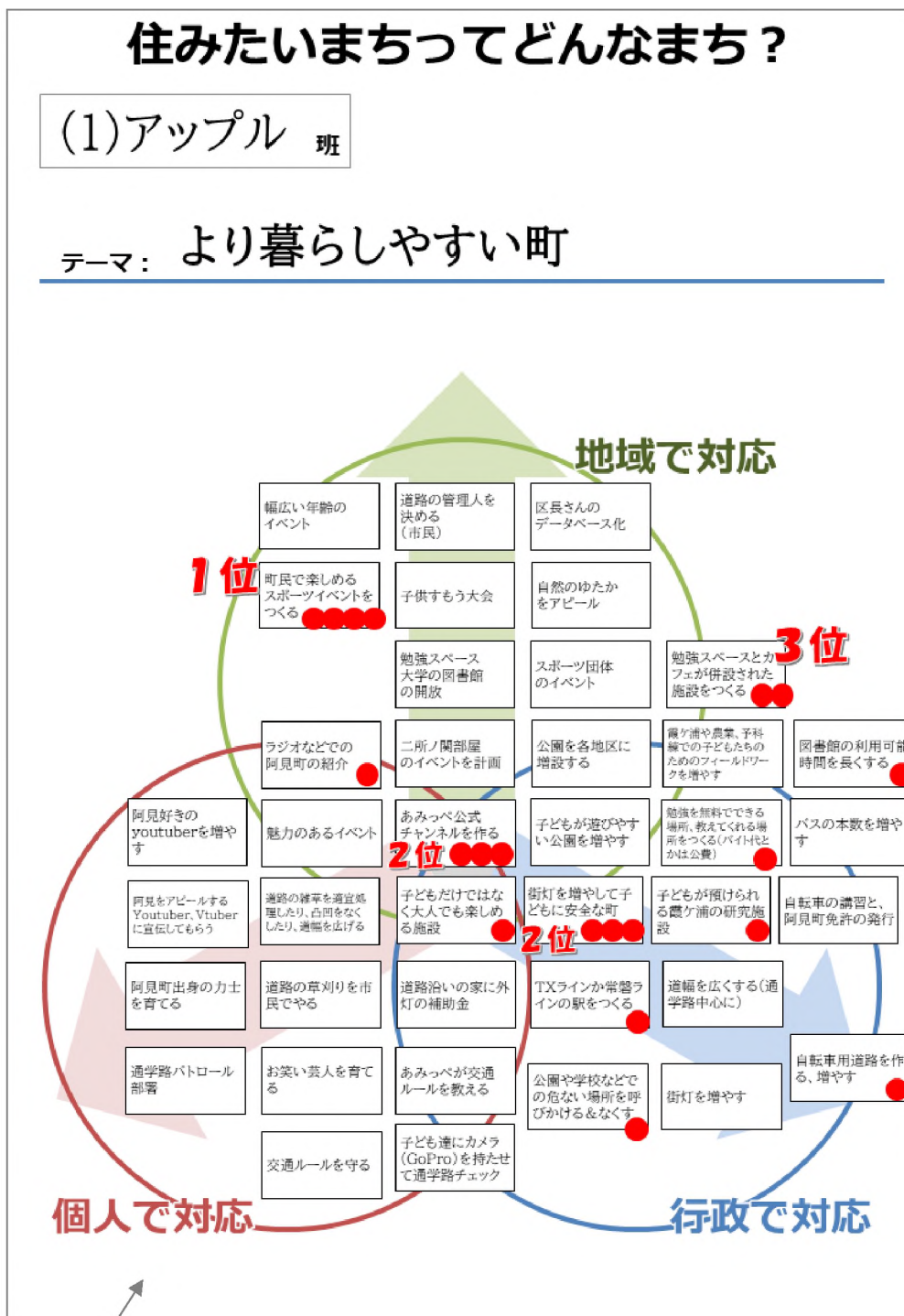
2. 参加者

20人（無作為抽出1,500人に案内を発送し、オンラインで申し込み）



3. テーマ 「住みたいまちってどんなまち？」

<ワークシートサンプル>



第1ラウンドで阿見町がどうすれば「住みたいまち」になるか、テーマを設定し、第2ラウンドで、テーマから連想される実現方法を「誰が担うべきか」の視点で書き出した。

4. 第1ラウンドで挙げられた主な意見

阿見町の良いところ（複数の参加者から挙げられた意見など一部抜粋）

- ・自然が多い
- ・子育てがしやすい
- ・アウトレットがある
- ・人口が増えている
- ・治安が良い など

阿見町に足りないところ（複数の参加者から挙げられた意見など一部抜粋）

- ・バスが不便、車が無いと不便
- ・阿見町特有が少ない、アピールが足りない
- ・店が少ない、飲食店が少ない
- ・通学路が狭いところが多い、自転車・歩行者が安心して通れる道が少ない
- ・公共のプールが無い など

5. 第2ラウンドにおける各班の「テーマ」と各班で選定した「アイデアベスト3」

【1班】より暮らしやすい町（20代が中心の班）

- 1位：町民で楽しめるスポーツイベントをつくる・・・地域で対応
- 2位：あみっぺ公式チャンネルを作る・・・行政・地域・個人で対応
- 2位：街灯を増やして子どもに安全な町・・・行政で対応
- 3位：勉強スペースとカフェが併設された施設をつくる・・・行政・地域で対応

【2班】阿見町全体が住みやすい町（30代～40代が中心の班）

- 1位：スーパー、よしわら方面にお店の増加・・・地域で対応
- 2位：都内の人と地元農家つなぐ→週末農業・・・個人で対応
- 2位：保育所の増設・・・行政で対応
- 3位：自治体で使用できるネットワーク環境 SNS的なもの・・・地域で対応
- 3位：公園管理の強化・・・地域で対応
- 3位：阿見アウトレット～荒川沖駅間の公共交通機関開通・・・行政で対応

【3班】より良い福祉の町（40代が中心の班）

- 1位：デマンドタクシーを使いやすくする・・・行政で対応
- 2位：住民への伝達(広報)不十分・・・行政で対応
- 3位：電灯を増やす・・・行政で対応

【4班】現有物のグレードアップ (60代が中心の班)

- 1位：霞ヶ浦の整理・開発(東洋のレマン湖)・・・地域で対応
- 2位：廃校施設の活用(高齢者向け、子どものためなど)・・・地域で対応
- 3位：ふるさと納税アピールがんばろう・・・地域で対応

【5班】様々な世帯が住み易いまち (70代が中心の班)

- 1位：ありがとう運動をする・・・地域・行政で対応
- 2位：不発(失敗)を大目に見る意識・・・個人で対応
- 3位：ホームページをもっと活用する など・・・行政で対応

職員インタビュー結果の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

阿見町の現状や将来像について、若手から中堅職員の意見を聴取し、第7次阿見町総合計画の策定に反映するとともに、職員参加の総合計画づくりを進めることを目的とする。

(2) 調査の方法

■対象者

聞き手：経験年数概ね8年目～13年目の職員24名

インタビュー対象者：経験年数概ね4年目～7年目の若手職員と、経験年数概ね14年目～19年目の中堅職員（合計48名）

■調査方法

(1) インタビューの実施

- ・1人あたり20分程度
- ・インタビューは、若手職員と中堅職員の2人に対して実施

(2) インタビューの開催場所

- ・役場内打合せスペースなど

(3) インタビューの手順

- ①自己紹介
- ②きっかけをつくる質問
- ③総合計画策定に係る3つの質問(15分程度)

■実施期間

令和4年8月22日(月)～令和4年8月31日(水)

■質問項目

1) これまでの阿見町

これまでの10年間(入庁してから現在まで)、阿見町はどのように変わったと感じますか。変わったと感じる理由は何ですか。

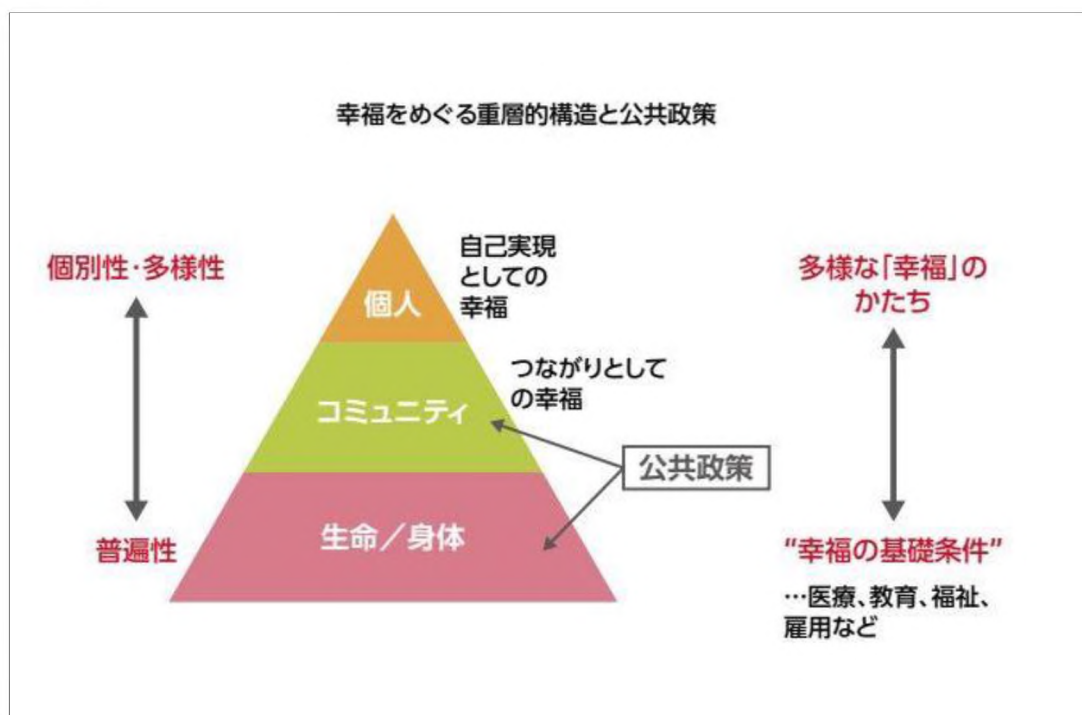
2) 今の阿見町

今の阿見町の弱み、強みはどこだと思いますか。阿見町の良さを人に伝えるとしたら、どのように伝えますか。

3) これからの阿見町

10年後、阿見町は、今よりもっと住みよいまち、今より住む人の幸福度※が高いまちになっています。それはどのような状態でしょうか、教えてください。また、そのために何が必要になるとおもいますか。

※ここでの幸福度とは、下記図の「コミュニティ・生命/身体」の公共政策の部分进行を言う。



出典 いわて幸福白書 2020

2. 職員インタビューの結果

<p>設問1</p> <p>10年間で阿見町はどのように変わったと感じますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○若手職員、中堅職員、聞き手ともに、人口および住宅の増加に関するコメントが最も多い。10年前と比べても増加が見られる。 ○中堅職員においては、人口増に関するコメントとともに、荒川本郷などの具体的な開発に関するコメントが見られた。 ○小学校の新設に関するコメントは、中堅職員のみに見られる。若手よりも長く行政に携わる中堅職員にとって、大きな変化と感じられていることが分かる。 ○地域交流・コミュニティについては、若手職員では住民参加の機会が増加しているというコメントがある一方、中堅職員ではコミュニティの希薄化が懸念されている。 ○若手職員においては、新型コロナの影響に関するコメントが特徴的となっており、事業の実施にあたって、コロナの影響を大きく感じていることが分かる。
<p>設問2</p> <p>今の阿見町の弱み、強みはどこだと思えますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○観光資源については、10年前に中心となっていた「アウトレット」の注目度は減少しているが、「二所ノ関部屋」などの新たな観光資源に関する意見が増えている。 ○若手職員、中堅職員、聞き手ともに、都心からのアクセスの良さ、自然と利便性のバランスの良さなどが阿見町の良さとして捉えられている。 ○中堅職員においては、住みやすいこと、災害が少ないことなど総合的な魅力についてのコメントが多い。 ○「阿見町の良さを人に伝える」ため、SNS、YouTubeなど、手段の重要性が着目されている。特に若手職員においては、具体的な手段（ソーシャルメディアなど）について、多くのアイデアがあった。
<p>設問3</p> <p>10年後の阿見町はどのような状態でしようか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○若手職員、中堅職員、聞き手ともに、人口増加の展望が見られる。特に中堅職員においては、荒川本郷をメインとした住宅地開発、交通網の整備、商業施設の充実などの具体的要因が期待されている。 ○若手職員においては、子育てしやすい環境づくりによる活気のあるまちづくりのイメージが多く挙げられている。 ○すべての職員において、新たに「多様性のあるまち」のイメージが挙げられている。人口が増加することに伴い、多様性のあるインクルーシブなまちづくりがイメージされている。 ○行政サービスの向上については、特に中堅職員のコメントが多く、町民ニーズへの対応、DXの推進などが挙げられている。

世代別ヒアリング結果の概要（町長と学生の語る会）



1. 実施日時・場所

令和4年11月6日（日）午後1時30分～3時15分頃
阿見町役場3階305会議室

2. 目的

阿見町第7次総合計画の策定にあたり、今後のまちづくりの核となる学生の方々から、今後の阿見町のまちづくりに関するご意見をうかがうことを目的とする。

3. 参加者

阿見町町長 千葉 繁

学生 14名

学校名	学部	学年	備考
茨城大学	人文社会科学部 現代社会学科	3年生 4名	
茨城大学	農学部 地域総合農学科	4年生 4名	ZOOM 参加2名
茨城大学	農学部 地域総合農学科	3年生 2名	
茨城大学	農学部 地域総合農学科	2年生 1名	
茨城県立医療大学	保健医療学部 放射線技術科学科	1年生 2名	
茨城県立医療大学	保健医療学部 理学療法学科	1年生 1名	

審議会委員より

茨城大学人文学部 蓮井教授 (ZOOM 参加)

茨城大学農学部 伊丹教授

茨城県立医療大学 岩井教授

4. 開催方法

- ・事前に質問内容を記したご意見シートを配布し、学生のご意見を出していただく。
- ・質問毎に、出していただいた意見を元に、代表的な意見や特徴的な意見について、その意見の背景や内容について述べていただき、町長と懇談をしていただく。

5. 懇談

(1) 質問1：阿見町の良いところ、おすすめスポットを教えてください。

●ご意見シートの意見

①良いところ

- ・自然が豊か (4名)
- ・買い物が便利 (3名)
- ・若者が多い (3名)
- ・車があれば暮らしやすい (2名)
- ・人が温かい (2名)
- ・病院がある (2名)

②おすすめスポット

- ・あみ・プレミアムアウトレット：(7名)
- ・霞ヶ浦 (2名)

●当日の主な意見

- ・小学生が挨拶をしてくれるあたたかい町
- ・学生が多く活気がある町
- ・明るい印象がある町

(2) 質問2：あなたが「暮らし」の中で「問題・課題」と思っていることは何ですか。

●ご意見シートの意見

- ・公共交通の利便性 (7名)
- ・自動車の交通量やマナー等 (3名)
- ・娯楽の少なさ (3名)
- ・街灯や歩道の段差などの安全性 (2名)
- ・物価の高騰 (2名)

●**当日の主な意見**

- ・荒川沖からバスを利用して大学に通っている学生から、時間によってはバスが少なく、定時に来ない、といったバスについての課題が挙げられ、運行情報をリアルタイムで提供するシステムがあるといい。
- ・書類などをデジタルで提出することが多くなったため、デジタルに慣れていない高齢者が気軽に相談できるといい。

(3) **質問3：10年後、どんなまちに住んでみたいですか。**

●**ご意見シートの意見**

- ・交通利便性が良いまち（8名）
- ・豊かな自然があるまち（6名）
- ・買い物利便性が良いまち（4名）
- ・高齢者や子育ての福祉が充実したまち（3名）
- ・住民の交流が盛んなまち（3名）
- ・街並みなど整ったまち（3名）
- ・相談体制が充実したまち（2名）

・**当日の主な意見**

- ・公共交通や将来的なモビリティ環境に関する話題が多く見られた。
- ・自転車や徒歩の範囲に生活に必要な施設が立地していると暮らしやすい、という意見があった一方で、大型商業施設へ行ける公共交通が充実すると暮らしやすい、という意見も見られた。

(4) **質問4：地元に戻るとしたら、どんな理由からですか。**

●**ご意見シートの意見**

- ・家族や知人がいる（8名）
- ・住み慣れている（5名）
- ・愛着がある（5名）
- ・生活の利便性が良い（2名）
- ・交通利便性が良い（2名）
- ・安心感がある（2名）

●**当日の主な意見**

- ・家族・友人などとの人とのつながりがあることが大きいこと、両親の老後を考えると福祉政策の充実が重視される。
- ・町への愛着があると、戻ってくる気になることから、町の誇りを育む教育を重視していくことが挙げられた。その他、地元が結束するお祭りやイベントも、地元への愛着や誇りにつながることなどが挙げられた。

(5) 質問5：住み続けられる（持続可能な）まちってどんなまちだと思いますか。

●ご意見シートの意見

- ・公共交通が充実している（7名）
- ・雇用がある（7名）
- ・子育てしやすい（6名）
- ・福祉が充実している（5名）
- ・教育が充実している（3名）
- ・公共施設が充実している（3名）
- ・商業施設が充実している（3名）
- ・住民の交流がある（3名）
- ・住民の意見が反映されやすい（3名）
- ・安心・安全なまち（2名）
- ・多様性を認めるまち（2名）
- ・観光地（集客力）があるまち（2名）

●当日の主な意見

若い人の交流の場としてどのようなものが欲しいかとの問いに対し、

- ・いろいろな人が遊び感覚で運動ができる場（複合型アミューズメント施設）、若人だけでなく年齢層が高い人も楽しめるスーパー銭湯、廃校の活用、宿泊施設などの意見が挙げられた。

アウトレットに来た人を町の中に滞留させるためのアイデアはあるかとの問いに対し、

- ・アウトレットでの阿見町特産品の販売や、アウトレットで買い物をすると阿見町で使えるポイントが貯まるという仕掛けなどのアイデアが挙げられた。

世代別ヒアリング結果の概要（町長と子育て世代の語る会）



1. 実施日時・場所

令和4年11月15日（火）午後1時30分～3時頃
阿見町二区児童館 遊戯室

2. 目的

阿見町第7次総合計画の策定にあたり、子育て世代の方々から、今後の阿見町のまちづくりに関するご意見をうかがうことを目的とする。

3. 参加者

阿見町町長 千葉 繁

参加者 0歳～成人までの子どもがいる子育て世代 8名

関係部局より（公室長、保健福祉部次長、子ども家庭課長）

4. 開催方法

- ・事前に質問内容を記したご意見シートを配布し、学生のご意見を出していただく。
- ・質問毎に、出していただいた意見を元に、代表的な意見や特徴的な意見について、その意見の背景や内容について述べていただき、町長と懇談をしていただく。

5. 懇談

(1) 質問1：阿見町の良いところ、おすすめスポットを教えてください。

●ご意見シートの意見

①良いところ

- ・公園や広場が多い（7名）
- ・自然が豊か（3名）
- ・生活がしやすい（3名）
- ・桜（3名）
- ・医療が充実している（2名）

②おすすめスポット

- ・医大通りの桜並木（3名）
- ・ふれあいの杜公園（2名）
- ・二区児童館（2名）

●当日の主な意見

多くの方から、無料の駐車場がある公園が多く、町内の様々な公園を利用しているという意見があげられた。また、小学生が、気持ち良く挨拶してくれたり、優しく声をかけてくれるため、自身の子もこんな風に成長してもらいたいという、学生のヒアリング同様の意見も挙げられた。

さらには近隣市町村と比べ野菜等が安いこと、スーパーや病院が近いことなどから、生活しやすいと感じているという意見もあった。

(2) 質問2：あなたが「暮らし」の中で「問題・課題」と思っていることは何ですか。

●ご意見シートの意見

- ・公共交通（2名）
- ・道路整備（2名）
- ・学校区児童館の閉鎖（2名）
- ・高齢者や子育て世代への福祉の充実（2名）

●当日の主な意見

急な子どもの病欠などにも対応できる職場に勤められると良いという意見が挙げられ、そのためには就労支援（賃金補助など）があると良いとの提案がされた。また職場復帰の時期についても、年度の途中入園が難しいという状況を踏まえ、自分のタイミングで職場復帰できると良いという意見が挙げられた。

あみメールを使用している方からは、若い人たちの利用が少ないと感じているため、若い人たちがよく利用する施設（スーパー等）にチラシを貼るなど、PRが必要ではないかとの提案があった。

(3) 質問3：阿見町の子育て環境について、どう思いますか。

●ご意見シートの意見

雨の日でも遊べる場所や、子ども達が安全な道路、食育の充実、一時預かりの充実など多方面に意見が分散した。

ただし、複数の方から、現在の町の子育て支援策に満足している意見があり、強いて言えば、他都市にはこのような例があるという紹介的なものが示された。

●当日の主な意見

SNSなどで子育て相談ができると良いという意見が挙げられた。さらに病院と連携していると尚良いとの提案がされた。

また、町のホームページは子育てに関する情報に辿り着きにくいいため、専用のホームページがあると良い。また、そこで児童館の予約や、母子手帳の発行ができると良いとの意見もあった。

実家が遠い方からは、リフレッシュのためなど、理由なく一時預かりをしてもらえるシステムがあると良いとの提案があった。

親子が雨の日でも遊べる部屋があったり、お年寄りが余暇を楽しめたりするなど、世代を超えて集まれるような施設があると良いとの意見があった。また、小学校に通う兄弟・姉妹がいる乳幼児の子育て世代の方への対応として、小学校でのおむつ替え可のトイレの設置や、陣痛タクシー、お年寄りが移動しやすい移動手段の確保など、施設の設備や施設への移動手段に関する意見があった。

(4) 質問4：10年後どのような町になって欲しいですか。

●ご意見シートの意見

- ・公共交通などが充実したまち（5名）
- ・子どもの遊び場が充実したまち（3名）
- ・安心して暮らせるまち（2名）
- ・安全な歩道が整備されたまち（2名）
- ・大規模な商業施設があるまち（2名）

●当日の主な意見

小中学生と乳幼児の遊び場が分けられた公園があると良いとの意見が挙げられた。

(5) 質問5：住み続けられる（持続可能な）まちってどんなまちだと思いますか。

●ご意見シートの意見

- ・公共交通が充実したまち（4名）
- ・福祉サービスが充実したまち（3名）
- ・地域コミュニティが充実したまち（3名）
- ・雇用が充実したまち（2名）

- ・衣食住が安定したまち（2名）
- ・保育所が充実したまち（2名）
- ・治安が良いまち（2名）

●**当日の主な意見**

隣近所の人に頼れる状況をつくるためにも、地域で交流する機会があると良いとの意見があった。別の方からもコロナ禍でイベントが中止されてしまったので、地域との交流の機会が無かったことを心配しているという声が挙げられた。

転勤族の方からは、親（祖父母）の支援が受けられないなかで働くために、さまざまな時間帯で働けたり、色々な給与体系があるなど、子育てをする人が働きやすい環境（職場）があると良いとの意見があった。